

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレイズ		
事業所名	なじみ山根(グループホーム)		
所在地	福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意思・主体性を尊重し、お一人おひとりがその人らしい生活を営み、アットホームな雰囲気の中で安全で安心して生活していただけるよう支援しています。又、医療、ご家族との関係を強化し、心身共に健康な毎日を過ごせるよう情報共有に努めています。
職員一人ひとりが日々向上心、やりがいを持って働けるよう、担当制の強化、社外研修へ参加する機会を設け、人材の育成に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 自治会に加入し、地域の行事や奉仕作業に参加したり、買い物や散歩等で会話を通じて交流を図っている。また、各種行事等でボランティアを積極的に受け入れる等、地域との付き合いを大切にしている。
2. 利用者一人ひとりに寄り添いながら、利用者本位の支援を行っている。また、家族に対して、面会時には積極的に生活状況を報告したり、毎月家族の集いを開催して、意見や要望等を聞き入れており、家族からの信頼度も高い。
3. 年間研修計画により、毎月各職員が交代で講師役を務め内部研修を行い、職員の資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、職員全員の目に付く場所に掲示し。会議等で繰り返し内容を確認することで共有を図り、利用者が自分らしい生活が営めるよう、利用者の気持ちを理解し、安心安全に生活出来るよう支援している。	事業所独自の理念を新たに作り事業所内に掲示し、会議等で繰り返し内容を確認して共有を図りながら、利用者が安全に安心して、自分らしく暮らしていけるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や清掃活動等に積極的に参加している。又、地域や施設の行事、催しでは積極的に呼びかけし合い、交流を図っている。	町内会に加入し、清掃活動に参加したり、総会や敬老会に出席して交流を図っている。利用者と同覧板を回しに行ったり、散歩等で挨拶を交わしながら、地域の一員としての関わりを大切にしている。夏祭りやなじみカフェ(事業所を開放して行っている地域交流サロン)に、地域の方々に参加を呼びかけたり、ボランティアの受入も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族の集いを開催し、認知症の理解に努めている。又、事業所交流スペースを地域の方々に開放し、事業所内の様子を見ていただいたり、活動等を通して交流し、理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二カ月に一回定期的に運営推進会議を開催。事業所の取り組みや状況等を説明し、会議メンバーから頂戴した意見は、社内ミーティング等で議論しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、利用状況や活動報告、サービス評価結果を報告して、会議メンバーから意見をもらい運営に反映している。また、防災訓練や行事を見てもらい、頂いた率直な意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主として管理者が市町村担当者とは連絡を密に取り、実情の連絡、報告をし協力関係を築いている。地域包括支援センターに於いても、日頃から連絡を取り、協力関係の構築に努めている。	事業所の活動内容や課題等について、報告や相談をしながら協力関係を築いている。また、運営推進会議に介護相談員にも出席してもらい、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所方針に基づき、社内研修等で身体拘束の理解を深め全職員に意識付けし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の方針を会議等を通して、職員一人ひとりに意識付けをしている。また、接遇委員会が中心となって、日頃より言葉による拘束等について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠は行わず見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やミーティング等での話し合いで、虐待に関する知識や理解を高め、常日頃から細心の注意を払い、見過ごされることのないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修や講習会を開催し学ぶ機会を設け、必要に応じ関係者と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立ち、抱えている不安や疑問を尋ね、理解・納得していただいたか確認しながら契約の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の集いを定期的で開催し、ご家族の悩み、相談事等を自由に話せる場を設けている。又、日頃から利用者との日常会話かやご家族来訪時に職員から積極的に声掛けをし、意見や要望を述べやすい環境作りに努め、職員全員で共有し運営に反映させている。	利用者や家族からは、日常会話や面会時に意見や要望を聞き、サービスに活かしている。また、運営推進会議や毎月開催する家族の集いで意見や要望を聞き職員全員で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二度個人面談を実施し意見や提案を聞き運営に反映している。	管理者は、日々の業務の中で声かけを行ったり、職員会議等で全職員に意見や要望等を出してもらい、それらを運営に反映している。また、年2回個別面談を行い意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた勤務条件を整備し、勤務状況、実績、自己評価、昇給実績、人事考課も含め給与を検討している。又、面談の際に職員個々の目標を確認し、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ミーティング等で勉強する機会を設けている。又、社外研修にも積極的に参加させ、学んできたことをミーティングで発表してもらい、職員一人一人の技術、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に事業所間で情報交換をしており、サービスの質の向上に努めている。又、福島県連絡協議会に加盟しており、総会等に積極的に参加。他者との交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用していただく前に、必ずご本人と面会をし、少しでも不安を解消できるよう要望や思いに耳を傾け、安心して生活していただけるよう信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用していただく前に、ご家族と一緒に本人の状態を確認しながら、不安や要望、思いに耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず状況、状態を把握し、現時点で一番必要としている支援を見極め、ご本人の思いを尊重した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活及び自立支援を念頭に置き、自立されている部分はご本人にさせていただき、できないことや困っていることを支援している。又、お一人おひとり役割を持ち互いに協力し合い、家庭的な生活が営めるような関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人を中心に考え、ご家族と情報を共有しながら、共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族、親戚、知人、友人が気軽に足を運んでいただける環境づくりに努め、体調等を考慮しながら、馴染みの場所やご家族ご友人と気軽に外出出来るよう支援に努めている。	家族、親戚、知人、友人の来所時は、湯茶を出しゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。家族や友人と外食や墓参、名所地への外出等で、馴染みの地域との繋がりが継続出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者個々の性格や状況把握に努め、職員が介入しながら、利用者同士が関わり合い、支え合える環境作り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も、関係を保ち、必要に応じ相談を承り、相談や支援が出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、ご家族からの情報の中から希望、意向を引き出し把握に努めている。又、本人の思いや意向が反映した生活ができるよう会議で検討している。	日々の会話や家族等の情報を基に、本人の思いや意向を把握し、アセスメントシート等の情報を加味しながら、本人本位のケアが出来るよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活習慣や暮らし方をご本人、ご家族よりお聞きし、できるだけ馴染みの暮らし方が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所以前の生活パターンや心身状態をご家族からお聞きし、できるだけ以前と変わることなく生活していただけるよう常に現状を把握し、職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がご本人、ご家族からニーズをお聞きし、アセスメントした結果を基に会議で検討。現状に沿った支援方法を介護計画に反映し作成している。又、心身状態の変化に合わせて、モニタリングした結果を基に介護計画の見直しを行っている。	各担当者がアセスメントを実施した結果を基に話し合い、利用者や家族、職員の意見等を反映した介護計画を作成している。また、身体状態の変化に合わせて、モニタリング結果に基づいた、介護計画を作成している。前回の外部評価結果を基に、身体面中心の支援計画から、利用者のニーズに沿った支援計画に改めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果は毎日個別記録に記録し職員間で情報を共有している。又、会議で工夫や気づきが話し合われ、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせ、ご本人、ご家族と話し合い、臨機応変且つ柔軟な支援やサービスに取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、お一人おひとりが地域と関わり、繋がりが持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し合い、心身の状態に合わせたかかりつけ医を選定し、適切な医療が受けられるよう支援している。又、医師と連絡を密に取り、情報共有することで、医療との関係を構築している。	事業所では、利用者、家族と話し合い希望する医療機関の受診支援を行っており、医師との情報共有も円滑に行われ、協力関係が構築されている。往診の際は、結果を電話で家族に報告し、情報が共有出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化は日々記録に残し、随時看護師に報告している。週に一度訪問看護師が来訪する為、その際状況報告と相談をし、適切な対応と指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には訪問し、病院関係者と情報交換を行い、適切で安心した治療を受け、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の支援についての説明をすると共に、同意を得るようにしている。又、状況・状態の変化に沿ってご家族、医療、専門職と密に話し合い、協力しながらチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、利用者、家族に重度化及び看取り介護の指針を説明し、リビングウィルの確認を行い、同意を得ている。また、協力医と医療連携を図り、訪問看護や往診、看取りケアを行っており、看取りに関する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変、事故発生時を想定した訓練を実施している。又、マニュアルを作成し、円滑に対処できるよう周知させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となって、月に一度様々な状況を想定した避難訓練を実施している。又、地域や運営推進委員会の方々にも見学いただき、協力体制の構築を図っている。	消防計画を基に、防災委員会が毎月様々な災害を想定した防災訓練を実施している。また、地域の方や運営推進会議のメンバーにも訓練に参加して頂き、終了後意見をもらいながら、協力体制を築いている。非常用食料を3日間分備蓄し、災害時地域にも貢献出来るようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念を念頭に置き、お一人おひとりの人格を尊重した接し方を心掛け、それに沿った対応をしている。	理念に掲げた利用者を思いやる気持ちを大切に、人格を尊重した言葉遣い、接し方に心掛け、生きがいを感じて貰えるよう支援している。また、「利用者様に対する接し方の心得」(15項目)が、職員ミーティングで確認し合い、職員間において共有されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にお伺いを立て、思いや希望を表出し、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から業務優先にならぬよう職員全員で心掛け、お一人おひとりの意向を尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気分良く一日を過ごして頂けるよう、身だしなみに気を配っている。又、地域の理髪店に協力をお願いし、事業所内で定期的に散髪していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と一緒に昼食の下ごしらえ、米とぎ等を行い、利用者と職員が一緒にテーブルで和やかに食事を楽しめるよう支援している。	利用者の経験を活かして、料理の下ごしらえ、米とぎ等を職員と一緒にしてもらい、食事も和やかに会話をしながら同じテーブルで楽しく摂っている。行事食としてバーベキューや流しそうめん等も取り入れ、ドライブも兼ねた外食等も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えながら、お一人おひとりの状態に合わせた量、形状で提供している。又、十分な水分を確保していただくよう、こまめに声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にお声を掛け、洗面台に誘導し、お一人おひとりの口腔状態、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある方はその都度トイレに誘導し、尿意、便意の無い方は定時誘導を設定している。お一人おひとりの力、排泄パターン、習慣に合わせ自立に向けた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、定時的に声かけ誘導を行っている。排泄の訴えが出来る方は、見守りを行いながら、トイレでの排泄が継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防と対応に関しては訪問看護師に相談し、指導していただいている。便秘が及ぼす心身への影響をミーティング等で職員に伝え、適度な運動とこまめな水分摂取の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。入浴の際にはバイタル、体調、ご本人の意思を確認し、安心して入浴を楽しめるよう、個々に沿った支援をしている。	週3回の入浴は、利用者の意向を汲み取り、曜日、時間を決めているが、その日の本人の意思を確認し、羞恥心や不安感に配慮して、歌を歌ったり、会話をし、楽しく入浴出来るよう支援している。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯を採り入れ、季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、昼寝を希望される方は誘導し、自室にて休まれております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の最新の処方箋をファイリングし、職員全員が、使用している薬の理解出来るよう努めている。誤薬防止の為、ご本人の目の前で名前、日付を確認してから服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力に合わせた家事仕事を手伝っていただいたり、レクリエーションの参加促しやご本人の楽しめるものを用意し気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は施設周辺を散歩したり、市内をドライブしたりしている。又、ご家族にお願いして外出していただいたりと、できる限り希望に沿うよう支援している。	事業所周辺の散歩や市内のドライブ等をしたり、地域の敬老会やお祭りにも積極的に参加している。年間行事として花見や紅葉狩り等で名所地にも出かけている。また、家族の協力を得ながら、墓参りや外泊、行きつけの理美容院に出かける支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、使用することに興味を示される方がおられない為、物品等の購入を希望された時には同行した職員が管理し、一緒に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話の使用、手紙のやり取りは自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの各所に季節の花や、壁面に年中行事に沿った飾り物をして季節感を楽しまれている。畳スペースには炬燵を置き、横になられたり、ゆったり寛いでいただけるよう工夫している。	居間兼食堂には季節の花が飾られ、壁面には行事の写真や利用者手作りの作品が、当時の思い出と共に掲示され、安らぎながら過せる場となっている。畳の間には、炬燵がセットされ利用者が横になり、ゆっくりとくつろげるスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が同じテーブルで楽しく過ごせるように配置を工夫したり、お一人になりたいときには自室で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人の希望で居室に置いて欲しい物や、壁に飾って欲しい物を配置したり、ご本人の慣れ親しんだ物や嗜好品をご家族に持ってきていただいたり、ご本人らしく過ごせるように配慮している。	利用者と家族と相談の上、自宅で使い慣れたテレビ、タンス、収納ケース、ぬいぐるみ等を持ち込み、また、家族の写真を飾り、自宅での思い出と共に、その人らしく生活が送れるよう居室を創っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレに表示を設置し分かり易く工夫したり、歩行経路を十分に確保し歩行の妨げにならないような物は置かない配慮をしている。		